



林間学舎に行ってきました！！

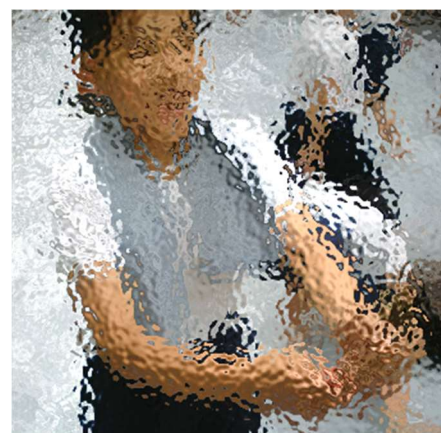
20日(木)・21日(金)の2日間、5年生の林間学舎がありました。場所は鉢伏高原です。山登りや魚つかみ、キャンプファイヤー、カートンドッグ作り、飯盒炊さんでのカレー作りなどに、みんなで協力して取り組みました。翌週月曜日の朝、5年生が登校してくると、「林間、楽しかった。」との言葉が聞かれ、こちらも嬉しくなりました。でも、いちばん良かったと思うのは、参加者全員が無事に2日間を過ごせたこと。大きなケガや事故もなく、保護者の皆様からお預かりした子どもたちを元気にお返りする、これにいちばん気をつかうのです。(立場上からかもしれませんが…。)



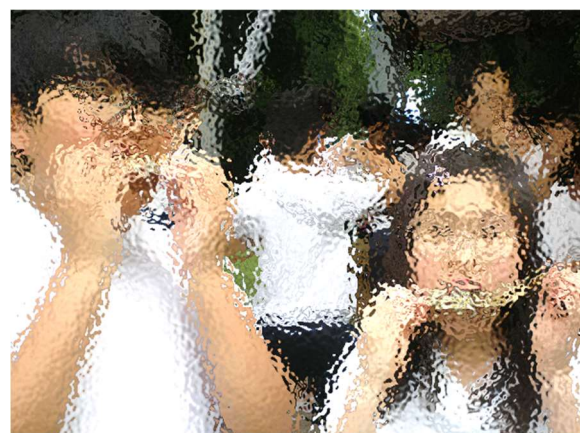
山登りに出発！



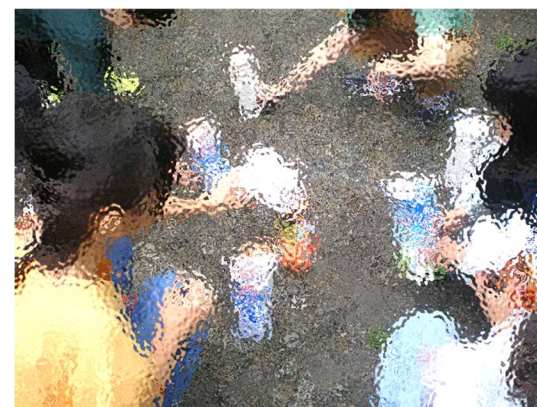
絶景をバックにポーズ



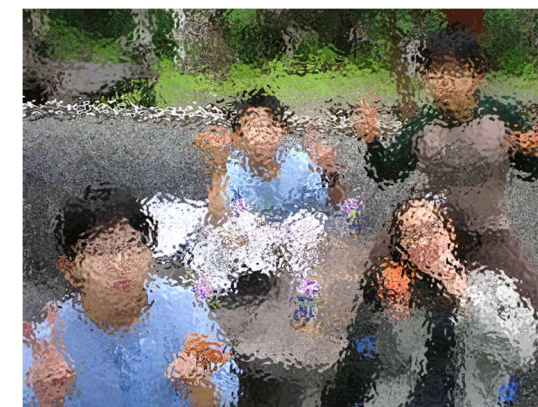
魚をつかまえました！



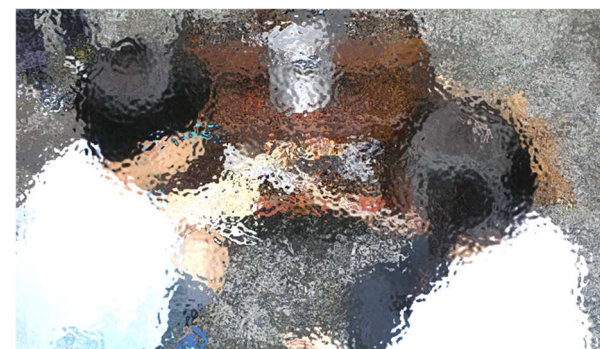
すぐに焼いて食べます「おいしい〜」



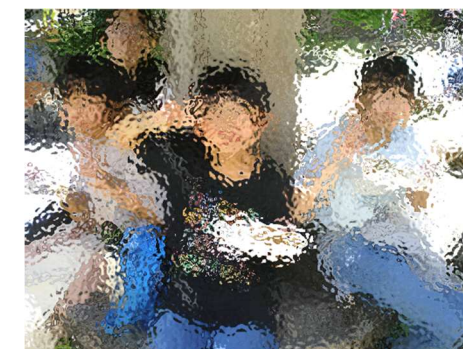
牛乳パックでパンを焼きます



これも「おいしい〜」



火起こしに四苦八苦



苦勞して作ったカレーは格別です

林間学舎を目指して5年生では様々な取り組みをしてきました。うまくいったことそうでないこと、様々にあると思いますが、全てをこれからの活かして行ってほしいですね。来年はいよいよ修学旅行です。

◇校長のつぶやきコーナー「やっぱり体験しなければ」

今回の林間学舎で改めて、「子どもたちにもっと体験を積み重ねなければ」と思いました。玉ねぎを手のひらに載せ、そこに包丁をあてて切ろうとする子、米を炊くのに水がいることを知らなかった子、火にかけた飯ごうを素手でさわろうとする子、驚きました。宿舎の方もいわく、年々、驚くことが増えるらしいです。また、「ケガや火傷がないように、野菜は切っておいてほしい、薪に火をつけておいてほしい。」と要望する学校もあるとか。それって、何の体験になるのでしょうか？

何事も自分でやってみる。うまくいかないこともある。そこで考える。そのようにして、子どもは様々なことを学んでいき、いわゆる「生きる力」を身につけていくのではないのでしょうか。大人の力を使い、子どもたちに失敗をさせないようにする。それが本当の大人の優しさでしょうか？私は、絶対に違うと思っています。

火起こしから始め、散々苦勞して作ったカレーを「めっちゃおいしい！」と言いながら満面の笑顔で食べている子どもたちを見て、私はこのことを確信しました。